２０１２．３．２０

南房総の過去の大地震・津波の痕跡を訪ねるバス見学会（報告）

昨年３月１１日の東日本大震災では千葉県でも飯岡地区他で甚大な津波被害を受けましたが、房総半島には過去にも大きな津波襲来の記録が残されています。

今回の見学会は海辺を重点にして、３００年前の元禄地震津波等で被害を受けた南房総地域を中心にその痕跡を訪ねました。

主な見学地

１、鴨川市前原地区の元禄地震前に造られた津波避難丘
２、南房総市和田地区の津波到達地点石碑（真浦の威徳院石段）
３、南房総市白浜地区の野島埼灯台周辺の地殻変動箇所

実施期日　　２０１２年2月１８日（土）

参加者数　　５０名（バスおよび自家用車）

行　程

（９：００）千葉発～鴨川市前原避難丘～和田威徳院～千倉白浜のお花畑（元禄地震で隆起した海岸段丘）～白浜野島埼灯台（元禄地震で陸続きになったといわれる）～白浜海底地滑り地層（数百年前の大地震による海底での地滑り跡）～千葉着（１７：００）

元禄地震津波の概要

・元禄１６年１１月２３日未明（１７０３年１２月３１日）に起きた地震で、千葉県では２０００人以上が津波で亡くなっている。
・鴨川市前原地区で約９００人、南房総市和田町真浦地区で８０余人の死者がでている。津波の高さは前原で６m、真浦で１０mを越したと推定されている。

その他（今回の見学会で気づいたことの一つ）

・威徳院の供養塔は被災５０年後、そのまた６０年後に建て直されている。
南房総に限らず九十九里地区も含めて数多くの慰霊碑が建てられているが、その多くが被災後おおむね百年ほど経つと建て直されている。石の風化とともに人の意識が風化しないよう採られたものだろう。

1） 鴨川市前原の津波避難丘

以前は加茂川と前原海岸にはさまれて堆積した砂丘だったが慶長・元禄津波を経て避難丘として盛土、整備されてきた。現在の丘の高さは約10m。昨年3．11の地震時には20余名の住民が避難したそうだ。

前原地区案内図

丘上は意外に広い（今回の参加者50人には十分すぎる広さ）
地元の古老から避難丘の歴史について説明を聞く

2） 南房総市和田町真浦　威徳院津波到達点碑、犠牲者慰霊碑

案内図

内房線線路より2mも高い地点まで津波が来たという。
当線路は元禄地震で隆起した段丘上を走っている

慰霊碑を前に威徳院住職の話を聞く参加者

津波到達地点を示す石碑（字は現在摩耗して読めない）
写真右奥に海（太平洋）が見える